



# 市民ネットワーク 議会速報

2013年  
千葉市議会第2回定例会  
6月25日～7月12日



市議会議員  
山田京子 湯浅美和子

## ローカルマニフェストにそって

## 代表質問 湯浅美和子

### 熊谷市長、これからの4年間、あなたはどう取り組みますか？

これまで第2回定例会では、会派を代表しての市政一般についての「代表質問」は行われてこなかったが、「市長選後初めての議会です市長の所信を問うては」との意見が議会内でまとまり、今議会から代表質問が行われることになった。

### 市長の基本姿勢について―憲法と脱原発

公表されたローカルマニフェストに沿い、私たちが課題と考えるポイントに絞って市長の考えを聞いたが、マニフェストに入る前に、まず外せない2点―憲法と脱原発―について質した。今回の参議院選挙でも、この2点は大切な争点であったはず。結果は経済一辺倒の中で端に追いやりられ、平和憲法の維持と脱原発は、危機的状況に陥ってしまった。

市長の答弁が「憲法九条の戦力の不保持については今後国民的議論の余地がある」「現実的なプロセスを経て原子力の依存度を下げることが重要」と、これまでの繰り返しであったことは、非常に残念。改憲・原子力の成長戦略での活用が現実味を帯びるなか、今後も首長としてのあり方を問い続けたい。

### ●市民の参画

「オープンデータの推進」などで市民と行政の関係をフラットにし、市民や団体、企業などが連携して課題解決に向け取り組んでいく仕組みを構築したい、とのこと。SNSの活用が個人的な市政への参画だけに終わらぬよう、また地域課題解決に向け活動する団体への支援を本格的に考えてほしい。

### ●女性の視点を活かしたまちづくり

前期マニフェストに男女共同参画の視点がなかったことを指摘してきたが、今回「女性の視点」が加わったことを評価。自治会役員に女性の参画を働きかけるといふが、その前に女性管理職の割合を30%まで引き上げるよう努力をすべき。

### ●農村の魅力を引き出すには

「そこそこ都会、そこそこ田舎」を千葉の新たな魅力として売り出したい、というのが市長の目玉の一つ。私たちもこれまで遊休地を活用した市民農園支援などを提案してきており、思いは同じ。宿泊可能な観光レジャー的な農村部の活用もあるのではないかと

この他に以下6点についても質問しました。

- 資産総量縮減の考え方
- 在宅医療・在宅介護の強化のうち認知症関連
- 保育士確保と保育の質の充実
- 市庁舎建て替えの考え方
- 循環型社会の推進
- みどり豊かな環境を守る

## 議案から

国のやり方は認められない！  
だけど、悩んだ未賛成

### 補正予算―地域の元気臨時交付金について―

この交付金は、政府の緊急経済対策の中心となる公共事業を迅速に実施させるための、各自治体の費用負担の軽減策。千葉市では、校舎、区役所などの改修や道路・橋りょうの補修など総額15億4300万円が、本年の第1回定例会に計上されました。

5月末、国が第1次交付限度額を発表。千葉市の限度額は、19億8900万円と4億4600万円の拡大。その拡大分が今議会の補正予算に計上されたものです。

設置から34年たった老朽化甚だしい畑コミュニティセンターの昇降機、三陽メディアフラワーミュージアム(花の美術館)温室排煙窓(2007年ごろから不具合)等の改修、市立病院の高額医療機器の前倒し更新などに活用されます。

それぞれ必要な事業であると認め、賛成しました。しかし、老朽化した施設の更新は、今回のように単発のおカネをあてがうのではなく、毎年の本予算で計画的に行うべきもの。緊急経済対策が民間の賃金アップや雇用の確保に結びつく保証もなく、振り返れば「借金の山」にならないのか、甚だ不安！

### 職員給与の削減

職員給与を、2013年7月から2014年3月までの期間、局長級平均103万円～30歳以下の若年層4～6万円を削減するもの

今回の給与削減は1月に国より求められ、3月議会で見解を質したところ「地方公務員の給与水準を、復興財源の捻出のため、一時的に減額している国家公務員の水準に合わせるよう一方的に求め、それを前提に、交付税額を削減するという国のやり方は、地方分権を大きく逸脱し、許されるものではない。全国市長会などと連携し国に抗議して行きたい」とのこと。この意思を貫き通して欲しかったと、今回の議案上程は非常に残念。

地方公務員法や地方交付税法等からみても不適切で、また予算上はすでに交付税減額分が組み込まれており、あえてここで職員の給与削減が必要なのかとも思いますが、財政厳しい中、市民サービスの低下を招くのは忍びないと給与削減の交渉を妥協させた職員の皆さんの決断も尊重し、議案に賛成しました。



# ちよつと待った！子宮頸がんワクチン

充分な情報提供、検診率アップ、性教育を...

## ◆重篤な副反応が多発

子宮頸がんワクチンは癌を予防できるワクチンとして、この4月からは中学1年女子生徒を対象に定期接種となりました。ところが、各地で、強い痛みや四肢の運動機能低下など重篤な副反応が報告され(医師が認めた症例358件)、被害者連絡会が発足したこともあり、厚生労働省は、6月14日「積極的勧奨は差し控える」通知を各自治体に発しました。

副反応はこれまで市内で7件、重篤ではなかったとの報告でしたが、その直後に千葉市内で1件重篤な副反応を疑う症例報告が7月9日に国からあったと聞きました。

## ◆親の心は

自費なら4〜5万円かかるワクチンですから、「やっておかなければ損」という気持ちになるのは当然。わが子が癌にならないようにと接種を決めた親心が、娘を苦しめることになってしまった当事者の無念はいかばかりかと思えます。

## ◆ワクチンの限界

そもそも子宮頸がんは、主に性交渉によって、ヒトパピロームウイルス感染が原因で発病しますが、ワクチンが効くとされる子宮頸がんの初期段階に至るのは10万人に7人にしかすぎません。また、ワクチンは5〜7割を占める2つの型のウイルスにしか効かないため、ワクチンを打てば検診をしなくていいというわけではないのです。

定期的な検診、早期発見、早期治療でほぼ100%治る病気ですが、千葉市の受診率の平均は29%。これでは、安心できません。

## ◆自治体の役割は

野田市のように自治体として接種を見合わせてほしいと求めましたが、「国の検診状況を注視する」とのこと、希望すれば接種は可能のままです。これ以上の被害をださないために、自治体からの予防接種の情報提供はリスクを含めて充分に行うこと、検診率のアップを図ること、学校などでの年齢に応じた性教育を充実させることを強く求めました。



## 千葉市議会 議会改革の動き

2011~2012年にかけての議会改革の歩みと成果の報告会が、6月18日に市民説明会という形で、千葉市議会として初めて、本会議場で開催された。

### ■2年間の主な成果

- 千葉市議会の基本理念を定めたこと
- 議員報酬の妥当性を検証する調査をおこない、有識者の意見も聞き、現行の報酬についてはおおむね妥当との結論に達したこと
- 委員会に一問一答方式を採用したこと
- 予算決算特別委員会分科会は常任委員会の単位で設置すること

今議会からは議長も替わり、議会改革推進協議会を新たに設置し、2014年12月までの間、前の期に積み残した、議員定数等の諸課題に取り組むことになった。

市民ネットワークとしてはこれまで同様、議会報告会の開催等を呼びかけていきたい。

## このままでいいの？

### 公民館運営審議会

各区の中核公民館には、公民館運営審議会が設置されていますが、毎月開く自治体もある中、千葉市は年2回のみ。委員は、研修もないため、公民館の法的根拠、本来の目的や歴史、他の先進例もわからないまま、毎年度の事業報告と新年度事業についての審議をするだけです。

公民館の将来像について、すでに議会では指定管理者制度の導入など市の意向が示されていますが、教育委員会は、いまだに公民館運営審議会委員に意見を求めています。市と市民を結ぶ大事な場である審議会には、市民アンケートをとってからという、非常に後手後手の段取りで聞くつもりでしょうか。

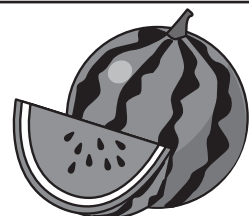
もっと早い段階で、議論のできる時間も確保し、この審議会委員の意見も聞きながら、公民館の将来像を考えるべきではないでしょうか。

委員の研修も取り入れてもっともっと活性化してほしい公民館運営審議会です。

## 千葉市議会女性市議の会から 慰安婦容認発言に抗議！

5月13日の橋下大阪市長の慰安婦容認発言は、女性はもちろん、男性の人格をも否定し深く傷つける重大な人権侵害です。また、戦争という暴力遂行のために女性の性を利用することを容認し、女性を道具のごとく扱う橋下氏の発言は公職を務めるものにふさわしくありません。

よって千葉市議会の女性議員9名全員で「橋下徹大阪市長・日本維新の会共同代表による日本軍『慰安婦容認』発言に強く抗議し撤回と謝罪を求める声明」を6月14日、同市長と日本維新の会、大阪維新の会宛に送りました。



## ◆今年度の所属委員会等

- ・ 山田京子 総務委員会 議会改革推進協議会 少年自然の家事業運営協議会委員 観光議員連盟役員 会派幹事長
- ・ 湯浅美和子 都市建設委員会 広報委員会 姉妹友好都市議員連盟役員 会派会計